



新本牧地区

本牧宮原、本牧和田、和田山、本牧原の一部

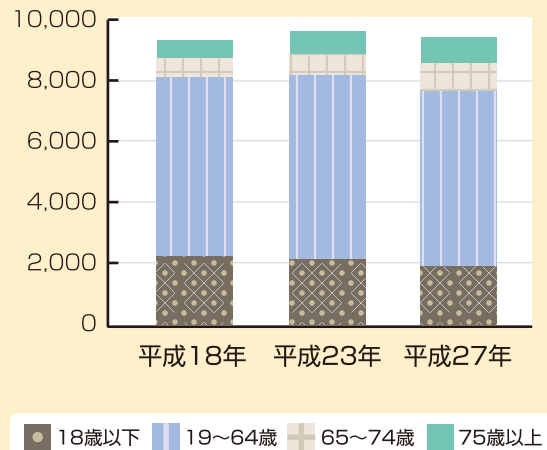


地区の現状 この地区はこんなまち

新本牧地区は、米軍の接收地だった土地を新たに開発してできた地域です。そのため、昔から住んでいる住民は少なく、ほとんどが新しい住民です。また、区画整理により公園や緑に囲まれ、道幅も広く景観が良いのが特徴です。地域の担い手は、現役世代が多く活躍しています。

<地区内人口の推移> (単位：人) (各年とも3月末現在)

	平成18年	平成23年	平成27年
18歳以下	2,204	2,108	1,880
19~64歳	5,909	6,050	5,761
65~74歳	625	710	917
75歳以上	579	759	857
合計	9,317	9,627	9,415



新本牧地区は、27年の高齢化率が16.2%と、横浜市平均22.9%、中区平均22.5%よりも低い数値となっています。地区内における人口推移としては、18年と比較すると、65歳以降の年齢は増加しているのに対し、64歳以下は減少しており、今後高齢化率が高くなることが想定されます。

歴史

本牧は、漁村と農業の村で横浜開港後もしばらくは田園が広がり、住宅地として開発され始めたのは、明治39年に三溪園が開園し、明治末に横浜電気鉄道(後の横浜市電)が本牧原、根岸まで開通してからです。太平洋戦争の横浜大空襲により大きな被害を受け、戦後は、進駐軍による占領接收により、焼け跡のバラックに仮住まいしていた住民は強制退去をさせられ、接收地は次第に芝生に囲まれた立派な家族住宅が立ち並び、ショッピングセンター、劇場等ができて「アメリカ村」等と言われていました。

昭和57年に接收地の解除が決まり、以後約5年間にわたって、区画整理事業やインフラ工事等が行われ、地権者に返還されました。返還後は、地権者の合意によって「建築協定」や「まちづくり指針」が締結され、街区別の基準や指針を定めて新しい街づくりを進めました。接收された人たちの中には移転先に定住した人も多く、永い歳月の間、世代交代等もあって、現在、ごく一部の人を除きこの地区に住む人々は、ほとんどが新しい住民になっています。

この地区の 良いところ

- ◆ 学校での朝のあいさつ運動や登下校の見守りなど、地区で子どもたちに声をかけ見守りをする機会が増えた。
- ◆ 音楽・ダンス等、特技を活かしてグループを作り、地域の住民同士で交流している。
- ◆ 小中学校で子どもたちが地区の良いところを見つけたり、地区の歴史を学ぶ機会がある。
- ◆ 子どもたちが地区のイベントの担い手をしたり、イベントポスターを作成している。
- ◆ 地元のスーパーが自治会として障害者啓発イベント等に協力している。
- ◆ 色々な専門知識を持った人が多い。

新本牧地区でのイベント紹介♪

新本牧地区では、毎年3月に「春のウォーキング大会」を開催しています。緑豊かな街の中を、ゴールめざして歩きます。コースは毎年少しずつ変わり、自分たちが住んでいる街の魅力を再発見できると、参加者の方々からは好評のお声があがっています。また、最近では「健康の日」のイベントも同日に開催しており、健康を心掛けてもらうため、骨密度測定や高齢者疑似体験などを行っています。

住民同士がつながるきっかけ、運動をするきっかけ、親子で参加するきっかけなど、様々なきっかけとなるこのようなイベントに、ぜひ参加してみてください♪



健康の日でのひとコマ♪
このような機会に
自分の体と向き合うのも
いいかもしれませんね。

ウォーキング大会でのひとコマ♪
冬の寒さがひと段落した時期に、
少し早い春を感じて歩くのも
気持ちよさそうです。



子どもを中心に、地域を盛り上げていきます！

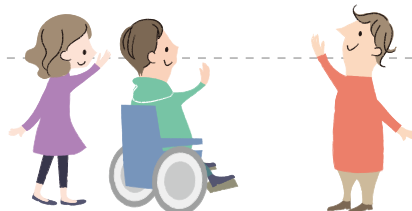
今後に向けて

- ◆ 自治会町内会の加入に消極的な方が加入してくれると良い。
- ◆ 自転車のマナーを守らない人や違法駐車をする人を減らしていきたい。
- ◆ こども会の運営など、自治会町内会を越えて交流したい。
- ◆ 自治会単位や共通の趣味を持った団体が地区全体に活動を披露する機会を設けたい。
- ◆ こどもたちに「ここが故郷だ」と思ってもらえるようなまちにしていきたい。
- ◆ こどもたちが地区について学んだことを実際に体験する機会があると良い。
- ◆ 地元の学校と連携を深め、地域のイベントなどに小中学生が積極的に参加できるようにしたい。

目標と具体的な取組

新本牧はあいさつでまちづくり ～広げよう！つなげよう！「人の和」～

- ◆ 登下校時などを利用し、大人も子どももお互いにあいさつしあえる関係を築いていこう。
- ◆ いつでも、どこでも、誰とでも「あいさつ」しあい、あいさつが飛びかう地区にしよう。
- ◆ 元気づくり推進協議会の枠組みを活用し、下校時の声かけ活動などをきっかけに、様々な活動へと広げていこう。



みどり会

奇数月第4土曜日に、一人暮らしの高齢者を対象とした食事会を実施しています。

一人暮らしでは普段作らない料理や、四季折々の趣向を凝らしたメニューは、美味しいうえに目で見ても楽しいと、参加した方々に喜ばれています。



新本牧地区の“えん”結び

- ◆ こどもたちを中心に地区のイベントを盛り上げ、これをきっかけに大人や障害のある人、外国人の人たちも自然に集まれるようにし、顔見知りになってお互いを見守ろう。
- ◆ 地域にある団体や企業等と協力関係を深め、地域での参加の輪を広げていこう。
- ◆ 地元の学校と連携し、地域のイベントなどに小中学生が積極的に参加できるようにしよう。
- ◆ 自治会町内会への加入促進を進めよう。特に、新しく引っ越して来た人に、新本牧を紹介するチラシ等を作成・配布し、自治会加入をすすめよう。
- ◆ 自治会町内会を越えた交流を図り、地域全体でこどもたちが育つ姿を見守っていこう。
- ◆ オートロックのマンションに居住して地域の行事になかなか参加しない人への見守りや地域行事への参加をすすめよう。

新本牧地区の元気！

- ◆ まちの健康につながるよう、自転車マナーなどに対する意識を高め、安心して暮らし続ける地区をめざそう。
- ◆ こどもたちが元気に活動し、時には大人やお年寄りが一緒に参加して、こころの元気をもらえるまちにしよう。
- ◆ ウォークラリーや健康の日を活用して担い手の掘り起こしをはかりつつ、住民の様々な活動を披露できるイベントの機会を設けよう。

